

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990300147		
法人名	社会福祉法人 星風会		
事業所名	グループホーム こすもす2号館		
所在地	栃木県栃木市惣社町123-3		
自己評価作成日	平成27年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成27年10月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成27年 8月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケアに力を入れています。一人一人のペースを尊重した生活リズムの確保ができるようデータの収集、分析を行い、一人一人にあった生活リズムを把握できるよう努めています。 ・委員会活動に力を入れています。各委員会が中心となり、身体拘束廃止に向けた活動や虐待防止の勉強会、季節ごとの感染症予防に対する情報の発信などを行い、全職員で共有しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市東部の田園に囲まれた自然豊かで閑静な環境の中に位置している。敷地内には同法人が運営する介護老人保健施設やケアハウス、訪問看護ステーションなどがあり、災害時や緊急時の協力など日頃からの連携体制が整っている。また、近隣の同法人病院による定期的な健康状態の確認や訪問診療が行われ、医療との緊密な連携が図られており、利用者や家族の安心感にも繋がっている。さらに職員の能力開発に力を注いでおり、看取り・身体拘束・虐待防止などの勉強会や研修が毎月行われ、職員も自己研鑽に励んでいる。看取りも行われており、看取り後のメンタルケアなど職員の精神的なフォローにも配慮している。職員は利用者一人ひとりの生活リズムなどを把握し、安心して地域で生活できるよう各人に応じた「個別ケア」をモットーに支援の充実に努めている。地域の公民館祭りへの参加や交流事業を開催するなど地域住民との積極的な交流に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念を掲示し、管理者、職員の意識付けを行い、その理念に基づいた品質目標を設定し実践につなげています。	法人の理念を掲示し共有と意識付けを行っている。また、職員全員で話し合い具体的な品質目標を毎年設定しており、日々のケアや言葉かけなど共有と実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の神社へ初詣に出かけたり、地域の公民館祭りや小学校の運動会への参加をしたり、近所の商店での日用品購入を通して地域のつながり、交流をしています。	法人として自治会に加入している。地域の公民館祭りに利用者の作品を出展するとともに、各種の催し物に参加している。法人の交流事業を開催し小学生や近隣住民との交流も行っている。また、日頃から近隣の商店に買い物に出掛けるなど日常的な交流も深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で行われる地域交流事業を通して発信できるよう努めています。また、地域運営推進会議の場で地域の人々に向けて発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域運営推進会議を開催しサービスの状況を報告し話し合いを行っています。そこでの意見をサービス向上に活かしています。	利用者・家族・民生委員・駐在所・地域住民・包括センターが参加し2か月に1回開催している。会議は参加型で運営され、夜間避難訓練への地域住民の参加など、課題解決に向けた提案や話し合いの場となっており、提案や意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは主に管理者が連絡をとっています。また、包括支援センターの職員に地域運営推進会議に参加していただく等、協力関係を築くよう取り組んでいます。	日頃から電話や訪問で相談や情報交換を行う他、職員研修の講師を派遣してもらうなど、良好な協力関係を築いている。また、地域の高齢者ネットワーク推進会議に参加し、情報共有や連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が中心となり、内部研修等を通して身体拘束についての知識を持ち、理解する機会を設け、身体拘束廃止に向けて取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会が設置されており、2ユニット合同で毎月内部研修を行うなど、積極的に身体拘束や言葉による拘束の廃止に向けて取り組んでいる。また、定期的に身体拘束に関する職員意識調査を行うとともに、言葉の拘束については職員同士がチェックし合うなど共通認識を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会が中心となり、内部研修等を通して高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けると共にアンケート、予防処置等で職員一人一人の虐待防止の意識を高め取り組んでいます。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等で勉強する機会を設けています。必要とされている方がいる場合は、活用できるよう支援を行います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結については入居契約時に、改定があったときには内容についての文書を作成しご家族にお渡しするとともに口頭での説明も行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見・要望は面会時や訪問時等随時お伺いするようにしています。伺った意見・要望はできる限り反映できるよう検討していますが反映が無理な時にはきちんと説明して納得していただいています。	家族の面会時や訪問時等に積極的に話しかけ、意見や要望等の把握に努めている。利用者・家族アンケートを毎年実施し、意見・要望等は職員に周知するとともに、出来る限り運営に反映させ利用者の生活向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全体会議やユニット会議を開催し、意見交換や情報共有できるようにしています。職員からの意見・提案があれば受け付けており、運営に良い影響があるものは検討し反映させています。	毎月開催しているユニット会議や全体会議での意見・要望を全体で共有し、内容等を検討しながら運営への反映に努めている。職員の個別面談を行うなど、日頃から職員が意見を言い易い環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自がやりがいを持って働けるように委員会等の役割を持たせています。また資格取得に対しては資格手当の制度も定められており、契約社員においては社員への登用制度も確立されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修参加の機会を設け、研修後は報告、発表の場を作り、全職員へ発信、共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修やGH協会総会等に参加する機会を設け、情報交換や交流を通じて得たものをサービスの質の向上に反映させています。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前にその方の基本情報を職員間で共有します。その上でケア内容の話し合いを行い、本人の安心を確保できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談から入居に至るまで連絡を密にとり話し合いを行います。入居後も必要に応じて話を聞く機会や話し合いの場を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を確認しながら必要としているサービスを見極め対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活歴の把握に努め、本人が出来ることは一緒に行い、同じ時間を共有することで共に生活しているという気持ちを持っていただけるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や日々の様子は電話等で家族に報告しています。また、こすもす通信を利用して近況を伝えたり、行事を行う際は案内状を送り参加を呼び掛けてます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や美容室等、これまでの関係が継続できるよう、家族に協力をしていただきながら支援に努めています。	入所時に本人や家族から馴染みの人や場所を把握し、これまでの関係が継続できるよう家族の協力を得ながら支援している。日頃から馴染みの商店などに買い物に出掛けるなど、地域との関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、他の利用者との相性等、利用者同士の関係を把握し、楽しく生活が送れるよう、必要時には職員が間に入る等を行い支援に努めています。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後においても、必要に応じて本人・家族と連絡を取り経過のフォローを行っています。また、他施設へ移った場合には、他施設の担当者への引き継ぎもしっかり行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中から意見や要望を確認し、本人の望む生活に少しでも近づくよう個別でのサービス提供に努めています。困難な場合は本人本位の支援ができるよう努めています。	居室や浴室等の場所で、1対1でじっくり対話するほか、普段の会話や表情、様子、行動などから本人の意向や要望を確認し、本人の希望に沿った支援に努めている。また、家族の協力を得ながら本人の思いに近づけるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながらこれまでの生活を聴取し経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子を生活支援記録、業務日誌に記録し、全職員が共有できるようにしながら現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に本人、家族、訪問看護等の意見を確認してサービス担当者会議を開催、職員の意見も反映したうえで施設サービス計画書を作成しています。	本人・家族・訪問看護・職員等の意見を確認し、サービス担当者会議の意見を反映した介護計画書を作成している。半年に1回モニタリングを行いサービス計画書の見直しを行うほか、本人の状況の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活支援記録に日々の様子を記録して情報共有に努めています。課題があった場合、その都度話し合いの場を設けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意見を尊重し、可能な限り柔軟な支援に取り組んでいます。職員の状況により対応ができない場合は家族に協力いただけるよう信頼関係構築にも力を入れています。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食や買い物に出かけたり地域の行事に参加して豊かな生活を送れるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に受診できるように家族の理解と協力を得ています。	家族の協力を得ながらかかりつけ医の受診を支援しているが、近隣の法人協力医を希望する利用者も多く、協力医による在宅診療など適切な医療が受診できるよう支援している。また、本人・家族とかかりつけ医の受診内容や薬等の情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に随時状態報告、相談しています。緊急時には看護師と連携を取り、医師の適切な診療が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先には定期的に面会に行く等して状態の把握に努めるとともに病院関係者との情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族との話し合いを行うことで、落ち着いて方針が決められるようにしています。また、職員の知識向上のために定期的な研修等を実施しています。	入所時の早い段階から、本人や家族と事業所の看取り指針に基づき、重度化した場合や終末期のあり方について話し合いを行い、方針を共有している。毎年看取りを行っており、家族や医師、看護師と随時話し合う他、職員も内部研修等で知識向上に努めている。看取り後の職員へのフォローも細やかに行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や勉強会で急変時、事故発生時の対応について知識を高めるように努めています。実践的な応急手当等については今後研修を重ねていきたいと思えます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練や月1回のこすもす2号館での避難訓練を行い、災害に対する知識を高めています。	消防署指導による年2回の総合避難訓練を実施しており、うち1回は午後6時からの夜間訓練を行っている。さらに毎月1回事業所単独の避難訓練を実施し、災害に対する職員の意識高揚に努めている。また、地域住民を含めたホットラインを構築するなど、地域との協力体制を整備している。	災害に備えた食糧などの備蓄や夜間想定訓練実施など災害対策に意を用いているが、引き続き災害時のマニュアル整備促進や、地域住民の避難訓練への参加促進など、更なる地域との連携体制の整備に期待したい。

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活歴の把握に努め、本人が出来ることは一緒にいき、同じ時間を共有することで共に生活しているという気持ちを持っていただけるようにしています。	職員は接遇関連資料を日常的に確認し、言葉かけやケアに対応している。また、内部研修や各ユニット毎の勉強会などで利用者の尊厳ある暮らしについて話し合い理解の促進に努めている。職員は利用者情報の守秘義務について理解しており、取り扱いと管理に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通じて石表現ができる環境づくりをしながら、本人の持っている力を見極め自己決定ができるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れは決まっていますが一人一人のペースを大切にして本人の意思を尊重し希望に添えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感や機能性を考えながらも、本人のお気に入りの服等を大切にしつつその人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援します。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル吹きやおしぼり準備等、本人の能力に応じて参加ができるように支援しています。	献立と食材は業者に委託しているが、調理は職員が行っている。利用者は本人の能力に応じて食事の準備等に参加し、職員も利用者とは話しながら同じ食事をとっている。また、利用者と職員と一緒におやつ作りを行う他、月1回利用者の希望する食事を取り入れるなどの工夫も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は身体の状態に合わせて摂取していただき記録しています。水分量が1日を通して確保できるよう入浴前後や外出時に水分補給をしていただき、お茶や牛乳等を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きや、必要に応じて準備をしたり見守りをしながら義歯洗浄や歯磨きを行っている。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握してプライバシーに配慮しながらトイレ誘導を行っています。状態変化が見られた場合は対応について検討を行っています。	生活支援記録で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に応じた誘導や声かけを行い、リハビリパンツの使用を少なくするなど、トイレでの自立した排泄を支援している。排泄への不安や羞恥心のある利用者に対しては、さりげなく寄り添うなど、プライバシーに配慮した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を毎日行い、パターンの把握に努めています。ラジオ体操、散歩への声掛け、水分補給にも心がけています。必要時には医師に相談し対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を尊重しながら1日おきを目安に入浴を行っています。入浴時は、その人に合わせた入浴スタイルで入浴していただいています。	基本入浴は1日おきに行っているが、体調や本人の希望にできる限り対応している。入浴を嫌がる利用者にはタイミングを見計らい声掛けを行うなど、安心して入浴できるよう工夫している。また、ゆず湯などで季節が感じられ、楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に応じて休息を促しています。生活のリズムを崩さないよう配慮し日中の活動時間と休息時間を常態に合わせて得られるよう心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の内服薬の説明書はいつも見られるように服薬チェック表にファイリングしています。内服薬に変更があった際には、細心の注意を払い日誌や申し送りノートを活用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において、ゴミ捨てや洗濯物たたみ、オセロや塗り絵、読書等それぞれの生活習慣に応じた生活が継続できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援や日用品購入等実施しています。その時々で1対1での外出も行ってます。家族にも協力していただき外泊、外出ができるよう働きかけています。	市内の道の駅に出掛けたり、ホームセンターや商店での日用品購入など、個別に対応した外出支援を行っている。また、季節に応じた花見の他、回転寿司や蕎麦屋などへの外食ツアーを企画し、戸外へ出る機会を設けている。	

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所で管理させていただいています。必要時にはその中から希望される商品を購入できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話から職員が家族に状況を伝えた後、希望に応じて本人と話せるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	教養の空間での湿温調整をこまめに行っています。また、観葉植物を置いたり、季節感の感じられる作品作りを行っています。	各ユニットが回廊式に作られており、中庭には花や野菜など季節感や生活観をとり入れている。リビングの壁には、利用者と職員と一緒に作成した折り紙の壁飾りや行事の写真等を掲示するなど季節感が感じられる場所となっている。また、共用空間は温湿度が調整され、快適に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	教養空間で一人になれるような空間はありませんがソファーや畳コーナー等でお話したり、くつろげるような空間づくりを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や寝具を持参していただいています。状態に応じて本人、家族と相談しながら居心地のいい空間になるよう工夫をしています。	居室には洗面台とエアコンが備えられており、使い慣れた家具や寝具が持ち込まれている。本人の希望を家族と相談し、過ごしやすい空間作りに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プライバシーに配慮しつつ本人の部屋がすぐに見えるように花や絵を飾っています。また、廊下やトイレには手すりを設置、安全に考慮しています。		